



〈編集・発行〉
独立行政法人 国立病院機構
奈良医療センター
<https://nara.hosp.go.jp/>

りえぞん

Liaison

vol.44

独立行政法人国立病院機構 奈良医療センター

令和3年1月

医療関係者の皆様へ 「りえぞん」(Liaison)とは、フランス語で「連携・つなぐ」といった意味をもちます。
奈良医療センターは、地域の医療機関との連携を深め地域医療の推進に努めていきたいという思いで付けました。

病院理念

私たちは、質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより、信頼される病院を目指します

令和2年度 病院目標

呼吸器疾患と神経疾患を中心とした「面倒見のいい病院」の機能を高める



発熱トリアージ実施中

Contents

● コロナ退治と忘れちゃいけないいつもの医療 — 忍耐強く、牛歩の精神で —	— 2	● 奈良県感染拡大期！院内感染ゼロを継続	— 5
● 部門の紹介	— 3・4	● 連携施設のご紹介コーナー VOL.6	— 6
		● 食堂の紹介	— 6

コロナ退治と忘れちゃいけないいつもの医療 — 忍耐強く、牛歩の精神で —



新年あけましておめでとうございます。

2021年は丑年です。先を急がず一歩一歩着実に物事を進める丑年です。

昨年は、2019年12月に中国の武漢で発生した新型コロナウイルス感染症が、瞬く間に世界中に広がり、世界全体に甚大な被害をもたらしました。今世紀最大の災害です。当院も早期に対策本部を立ち上げ、県内の多くの病院とともにこの感染症に対峙してまいりましたが、未だに終息の兆しが見えません。「耐える丑年」の本年も引き続き、辛抱強く感染症対策に万全をきして、県民の皆様のために尽力してまいりたいと思

います。

さて、今、医療は専ら新型コロナウイルス感染症に追われているところですが、当院には、結核診療、重心医療、神経難病などいわゆる政策医療を支える責務があり、これを止めることはできません。昨年は、パーキンソン病等に対する定位脳手術件数が全国5位、人口あたりに換算すると一病院が扱う患者数としては、日本一になりましたが、他の医療施設では治療困難な患者さんを助けることもまた重要な任務です。

丑年は「これから発展する前触れ・芽が出る」年とも言われます。これまで当院は、「てんかん医療」に精力的に取り組んでまいりましたが、本年からは、「奈良県のてんかん診療の拠点病院」として新たに生まれ変わります。これまでは専ら、てんかんの医療を行ってききましたが、患者さんの生活面、例えば学校生活、運転免許、就労、各種福祉サービスの相談や紹介など、福祉サービスの分野のサポートにも力を入れることで、治す医療から治し支える医療をめざしたいと思います。

地域連携においては、これまでの病・病診連携、さらに介護サービス事業との連携をいっそう深めることで、地域の患者さんのために貢献したいと思います。特に病院で診療するだけでなく、在宅患者さんのところへ赴き、診療・指導・支援することを目標にしたいと考えています。

さて、新型コロナウイルス感染症に対して、職員は全力で戦っていますが、肉体的にも精神的にも限界になりつつあります。このような時こそ、タスクシフトなど業務効率化を実施し、職員の負担を減らして、長期戦にも耐えられるように「働き方改革」も実践します。

COVID-19に耐えながら、「信頼される面倒見のいい病院」目指して、一歩一歩、牛歩であっても、あつさりすることなく進む「奈良医療センター」であり続けたいと思います。

Let's try !

令和3年1月
院長 平林秀裕

部門紹介



リハビリテーション科

当院のリハビリテーション科は、理学療法士13名、作業療法士5名、言語聴覚士5名、心理療法士2名の総勢25名で日々患者様の診療にあたっています。約300平方メートルの広い機能訓練室だけでなく、日常生活場面を想定した和室、声を出さず練習や心理検査などのプライバシーに配慮できる個室を備えており、様々なニーズに対応しています。

パーキンソン病や脊髄小脳変性症、筋ジストロフィー症などの神経筋疾患、脳梗塞・脳出血といった脳血管疾患、肺気腫や間質性肺炎などの呼吸器疾患、腰椎圧迫骨折や上肢骨折などの整形外科疾患、重症心身障がい児・者など、様々な疾患の患者様を対象にリハビリテーションを行っています。さらにパーキンソン病や高次脳機能障害の方には、リハビリテーションを目的としたクリニカルパス入院も積極的に展開しています。

現在はCOVID-19の感染予防として、標準感染予防による対策に加えて、こまめな清掃・消毒を行い、患者様にもマスクやフェイスシールドを着用するなど協力していただいています。患者様と密にかかわる職種であることを一人一人が意識し、感染予防を徹底した上で、最善の診療を届けることができるよう全力を尽くしています。

【理学療法部門】

理学療法部門では、運動機能が低下した方に対して、能力や状態に合わせた運動療法・日常生活動作練習を中心に行っています。患者様の四肢や体幹、全身の状態を検査するだけでなく、重心動揺検査を用いて、身体の機能を正確に評価したうえで、ニーズに合わせた治療内容を提供できるよう心がけています。

またチーム医療を担う一員として、RST（呼吸ケアラウンド）、緩和ケアチーム、骨折予防や退院・転院に向けたカンファレンスに参加するだけでなく、ボトックス治療やDBS（脳深部刺激療法）調整のサポートなど、医師をはじめとする多職種と連携を行っています。

1～3年目の若いスタッフから10年目前後の中堅、20年目以上のベテランと幅広い経験年数のスタッフが揃っており、互いに切磋琢磨しながら日々和気あいあいと仕事に取り組んでいます。

【作業療法部門】

作業療法部門では、疾患やニーズに合わせて多様な作業療法を提供しており、時には患者様の相談相手になるなど精神的なサポートも行っています。

作業療法の基本的な仕事は、日常生活(入浴・排泄・更衣・整容・食事など)における応用的な動作を中心に、家事動作や就労、余暇活動にいたるまで患者様のQOL向上を目的に訓練を行います。訓練にはさまざまな活動を用いることがあり、編み物・木工・折り紙・塗り絵・簡易なスポーツ・農作業などを利用して、患者様が楽しめる要素も取り入れています。自宅の生活環境や患者様の社会生活での役割を踏まえ、退院後の生活がより良くなるための支援を心がけています。

【言語聴覚療法部門】

言語聴覚療法部門では、ことばによるコミュニケーション障害や、摂食嚥下（食べる・飲み込む）でお困りの方に対して専門的な検査・評価を行い、必要に応じてリハビリテーション・指導・家族への助言などを行っています。

当院には認定言語聴覚士（摂食・嚥下障害領域）が在籍し、高い専門的臨床的技術を活かして、耳鼻咽喉科医師、摂食嚥下障害認定看護師、管理栄養士など多職種の専門家とともに嚥下造影検査（VF）や嚥下内視鏡検査（VE）による評価、安全な食形態の提供、栄養、リハビリテーション等を行っています。チーム医療を通して一人でも多くの患者様に「口から食べる幸せ」を取り戻せるよう、患者様とそのご家族に寄り添った支援を心がけています。

また、当院ではパーキンソン病の治療法LSVT LOUD®を導入し、その認定を受けた言語聴覚士が患者様のサポートをしています。本プログラムは、意識的に大きな声を出すトレーニングによって発話明瞭度の改善効果が期待されます。集中的なトレーニングによって、日常生活においても習慣的に大きな質の良い声が出せることを目標としています。

【心理療法部門】

心理療法部門では、心理療法、神経心理検査、認知リハビリテーションを主に行います。心理療法では、患者様の話をお聞きすることで、こころの状態について考え、精神的な混乱を和らげるほか、患者様を一番に支えるご家族への心理的サポートを行うこともあります。神経心理検査では、知能検査や発達検査だけでなく、記憶力、注意機能、遂行機能などの高次脳機能や、自動車運転免許の更新に必要な認知機能を評価します。また描画検査や質問紙などを用い、抑うつや不安などのこころの状態を調べることもあります。認知リハビリテーションでは主に高次脳機能障害の患者様に対して、リハビリテーションを行うだけでなく、障害の理解を促したり、ご家族にサポートや対応のしかたなどをお伝えしたりし、患者様がスムーズに日常生活や社会生活に戻れるように支援しています。

各種リハビリテーションに関してのご質問・ご相談のある方は、いつでもお気軽に当院地域連携室までご連絡ください。



奈良県感染拡大期！院内感染ゼロを継続

奈良医療センター
感染担当看護師 三瀬 恵子



私は、4月より感染管理担当看護師として、院内感染を防ぐ仕事（感染管理）に従事しております。

新型コロナウイルスが確認されたのは、昨年末、中国武漢の海鮮市場で売られている野生動物が感染源だと推測されたことからはじまりました。世界的な流行となり、全国の感染管理の専門家たちが手を焼き、色々な根拠が飛び交い、今もなおコロナ情報に惑わされています。流行初期は、患者様に「海外に行かれましたか？」と質問していたのに、今は「県外に行かれましたか？」と情報も変化しています。

私は、院内感染ゼロを目指すために新型コロナウイルスの感染対策は「外来トリアージ」と「標準予防策の徹底」だと考えております。

外来トリアージに関して、厚生労働省は、『新型コロナウイルス感染症に対応した医療体制についてのQ&A（第6版）』において、COVID-19が疑われる患者と一般の患者の入り口と動線を可能な限り分けることが望ましいとしている。しかし、現状は難しく、「一部の感染者は通常通りの方法で受付を訪れることを見越して、事務系の受付職員がCOVID-19の可能性を機械的に判別するための基準を作っておくことは、受診早期に隔離を行ううえで有用」と述べています。当院は、5月末より新型コロナウイルスの主症状の「熱、咳、倦怠感」の「熱」に着目をして、発熱トリアージを開始しました。最初は、非接触性体温計を用い、病院職員2名で外来患者様を測定していましたが、測定時に患者と接する距離が近い問題点があり、途中から複数人数を同時に測定できるサーマルカメラ（熱検知カメラ）を導入し、対応をしています。

次に標準予防策の徹底ですが、標準予防策は10数個の具体的な対策から構成されますが、新型コロナウイルスの主要な感染経路が飛沫と接触であることを考えると、マスクの着用、手指消毒、人との距離（密にならない）、予測される汚染箇所や程度に応じた个人防护具（ガウン、手袋、マスク、ゴーグル、キャップ）の活用が特に重要です。マスク着用と玄関前の手指消毒は、皆様の協力をいただいております。マスク着用をしていない外来患者様に声をかけますと「すまないね。忘れていた。」と快く着用をしていただき、皆様と共に院内感染予防をしていることを実感します。そして、玄関先での手指消毒使用もほとんどの皆様にしていただいております。

また、外来でブルーのガウンを着ている医療従事者の姿をみると思います。これは感染予防のために行っている个人防护具です。予測される汚染箇所や程度に応じた个人防护具を適切に使うことができた場合、そう簡単には、院内感染を起こすような感染症ではないと考えられています。フル装備のガウン姿で働く医療従事者をみて、物々しい、コロナが来ていると勘違いをなさらないでください。感染症に応じて、个人防护具をかえていますので、ご理解のほどをよろしくお願いいたします。

最後に新型コロナウイルスの感染対策は頻繁に改訂されます。私は新型コロナウイルス情報の最新版を確認し、正しい情報を医療従事者や患者様に提供できるように日々努力していきたいと考えております。何卒、感染対策を頑張っている奈良医療センターをよろしくお願いいたします。



三馬 整形外科

三馬 正幸 院長

奈良市二条町2-2-7 武田ビル 1階

三馬整形外科は1999年2月に奈良市二条町(西大寺)の地で開業しました。診療対象は一般整形外科疾患全般ですが、特に「膝関節疾患」「スポーツ整形外科」を専門に日常診療に励んでいます。

私はもともとスポーツに関して大変興味がありました。約30年前になりますが勤務医時代に縁があって、「バスケットボール日本代表」に関わる機会があり、それ以来4回にわたり男女日本代表の海外遠征に帯同し、これまたバスケットボール男女実業団(日本リーグ)のチームドクターや、別に関西名門大学ラグビー部のチームドクターを永年務めてきました。

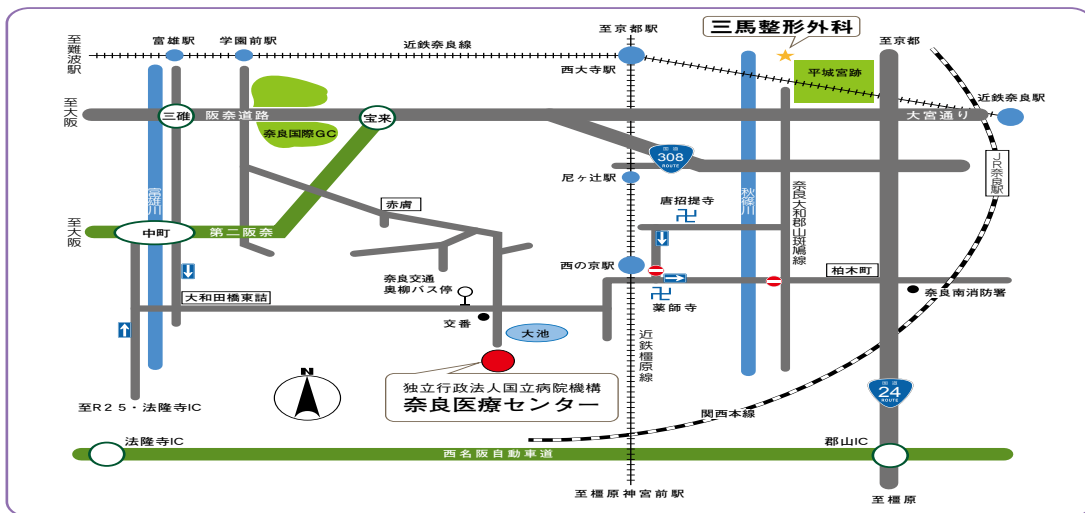
こういった貴重な経験を生かして、現在特に午後は学生を中心に色々な種目のスポーツ選手の診療にあたっています。

比較的高齢の患者さんにはわかりやすく丁寧に説明や診療を行い、一方スポーツ選手には少しでも早い復帰ができるように心がけています。

診療時間：月・火・木・金・土曜日 午前診 8:30~12:30
月・火・木・金曜日 午後診 16:00~18:30

(第2第4土曜日は休診) (第1、3、5土曜日は午前のみ診療) ※午前の受付は12:00まで

TEL: 0742-34-6020



独立行政法人 国立病院機構
奈良医療センター
地域医療連携室

〒630-8053
奈良市七条2丁目789
TEL.0742-45-4591 (代表)
TEL.0742-45-1563 (直通)
FAX.0742-45-4901 (直通)

食堂の紹介

営業時間：10:00~15:00
日替わりランチは660円です。

人気メニューは、鍋焼きうどんやハンバーグ定食です。日替わりランチメニューのリクエストも受けていますよ♪売店にも毎日弁当を出していて、夕食に持ち帰る人もいます。食をした人は210円のドリンクを120円で提供しております。



とある日の日替わりランチ



親子丼

毎日栄養バランスの取れたメニューをおばちゃんが考えてくれています。